

エフエム八ヶ岳番組審議会報告

エフエム八ヶ岳はリスナーの皆様のご意見を番組制作に反映させ、より良い番組づくりに努めております。放送内容について皆様からのご感想、ご意見をお待ちしております。今後の番組制作の資料とさせていただきますので、どうぞお気軽にお寄せください。

■2020年4月

エフエム八ヶ岳 4月の番組審議会の議題は斐崎市の番組「ニーラ斐崎すまいるニコリ」(毎週火曜日正午から午後零時半、午後6時再放送)。新型コロナウイルスの感染防止のため市内の全小中学校7校が休校になっていることを受けて、児童・生徒らに先生方の励ましメッセージを送る特別番組を制作し、3月17日、24日の2週にわたって放送しました。放送内容について、審議委員6名の主な意見は次の通りです。

- ・コミュニティFMの機能を生かしたよいアイデアの番組だった。
- ・児童・生徒のフォローは電話などで行っていると思うが、子供たちにとってみれば先生の声がラジオから流れてくるという特別感があり、内容よりはそのことに価値があるような気がした。
- ・小中学校の先生による子供たちへの「頑張れメッセージ」、それぞれの学校で工夫がされていてとてもよかった。教え子たちへの愛情が感じられて、期待と不安を抱え、新学期を迎えた児童・生徒たち、特に小学新1年生にとってはうれしかったと想像できる。
- ・先生方のメッセージ、声を聞くことができうれしいのはよいが、もう少し楽しい話題や工夫があってもよかった。
- ・NHKや民放テレビ、さらに地元の日刊紙でも紹介されて、とても大きな反響を得ていた。
- ・コロナでの休業が長引くようなら、今後も継続してみたらよいと思う。メッセージだけでなく、内容も工夫しながら。
- ・ラジオはテレビと違って想像力を養う意味でも、とてもいい企画だったと思う。今後もいい企画を考えてコロナに打ち勝ちましょう。
- ・インターネット回線が使えない家庭もあるだろうし、もっとラジオでつながっていけるとよい。
- ・今回の放送をある種災害ととらえれば、災害対応の番組作りの参考になると思う。
- ・学校にとっても、先生のメッセージだけでなく、授業のラジオ展開も考えられるのではないだろうか。